https://nizinosato.com

にじの郷（さと）たにやま通信

2026年 8月発行 第34号

発行責任者／理事長 水谷 吉伸　　鹿児島市中山町5028番地80 電話099-267-3977

目次

特養ホーム浴室改修と今後の事業運営展望 ･･･P1
2026年度事業計画 ･･･P2
2026年度役員及び役職者体制 ･･･P4
特養ホーム 1年の活動･･･P5
ケアハウス 1年の活動･･･ P6
保育園 みんなの1年･･･ P6
2025年度事業及び決算報告 ･･ P7
相談活動の取り組み ･･･ P8



▲みんな楽しく　～つながる笑顔～

特養ホーム 浴室改修と今後の事業運営展望
～より質の高いサービスを目指して～

当法人の特別養護老人ホーム(従来型)は、1999年10月の開設から今年で27年目を迎えます。浴室について、これまでは部分的な機器更新等をしてきましたが、2026年1月から2月にかけて大規模な改修工事を実施いたしました。

今回の工事では、床や電気設備の改修に加え、個浴槽および機械浴槽を最新の設備へと更新し、全面的なリニューアルを行いました。利用者様からも喜ばれ、より安全で快適に、心地よい入浴の時間を楽しんでいただける環境となりました。

このリニューアルを機に、より質の高いサービスを目指して、ICT機器導入等の検討もすすめ、「生産性向上」と「介護の質向上」を目指した業務改善をすすめます。職員の負担軽減を図りながら、ご利用者お一人おひとりに寄り添ったより良いケアを提供してまいります。

2026年度 事業計画

2026年度は、「『その人らしく気持ちよく生きる』によりそう。つながって安心と笑顔を届ける。」を中心テーマに、サブテーマとして「つながりを増やし、地域とくらしの安心を結ぶ」「楽しさや生きがい、こころと身体の健康、くらしを支える事業で役割を果たす」「歴史と理念を深める　一人ひとりが輝き、役割を発輝し、挨拶と笑顔ある職場づくりに取り組む」の3点を掲げました。

「健康で長生きしたい」という願いは多くの人に共通するものです。また、自分の人生を考える時、命には限りがあることも知っています。医療や介護が必要な時であっても人としての尊厳や権利が尊重され、社会とのかかわりがあり、安心して過ごすことができ、その人らしく気持ちよく生き、人生を全うすることができることを願います。これから先の時代が希望や展望がもてるよう、権利としての社会保障制度が守られ充実し、誰もが生きやすい社会、つながりのある優しい社会が求められています。私たちは「人間の尊厳と基本的人権の尊重」を運営理念に掲げ、介護福祉・児童福祉にかかわる事業と活動を行っています。楽しさや生きがい、こころと身体の健康、くらしを支える事業で役割を果たします。明日へのくらしが描けるよう相談活動を大切にします。

未来を担う子どもの心身の豊かな発達につながる事業と活動を大切にします。

職員のやりがいと楽しさを大切にし、笑顔ある職場づくりと事業運営に取り組みます。

〈事業活動の重点課題〉

①(私たちの事業での役割)
私たちの総合力と連携、多機能なサービスで「その人らしく気持ちよく生きる」をささえます。「虹の福祉会まるっとケアにじ」で描く特徴や役割を今日的に進化させ、在宅支援から通所、介護度や身体機能にあわせた複数の施設まで、多機能で総合的なサービスで利用者様の心地よいくらしをささえます。事業の質の向上に取り組みます。

②(地域を支える役割)
相談活動を強めます。つながるすべての人の安心と幸せを願い取り組みます。専門家としてのかかわりと、寄り添い共に考えることを大切にします。事業利用者様など、対人支援においては、課題解決のアプローチと継続的につながっていくアプローチを支援の両輪として大切にします。地域や対外的に相談窓口等の機能や毎月定例の相談日の活動を知らせます。

③(経営の重視で事業と組織を守る課題)
すべての事業所で事業収益予算達成に取り組み、増収増益で継続発展できる経営基盤をつくります。私たちの施設や事業所定員枠は地域福祉の資源です。利用者の確保の取り組みをすすめます。職員の生活を守る上でも経営の改善に取り組みます。

④(人材確保、職場づくりの課題)
事業の継続・発展の要である人材の確保を強めます。職員のやりがいと楽しさを大切にし、笑顔ある職場づくりに取り組みます。気持ちよい挨拶や感謝の声かけのある職場風土・文化を育みます。

⑤(今後を見据えて　長期的視点)
私たちのありたい姿や実現への「みちすじ」の討議を工夫しながら今後のビジョンづくりに繋がる取り組みをすすめます。

1、事業活動

①介護事業

○運営理念で掲げる「人間の尊厳と基本的人権の尊重」をより一層深め、介護福祉事業を運営します。「その人らしく気持ちよく生きる」に寄り添い、諸活動の充実を図ります。人と人とのかかわりの中で自分の存在と楽しく生きる活動を大切にします。

○多機能なサービスで「その人らしく」をまるっとささえます。総合力と連携で役立ちます。2025年度末の事業の再編(ヘルパー事業の廃止)に伴い、他法人事業所との連携に丁寧に対応します。地域の医療・福祉事業所の事業内容や連携の構図にも変化が生じており、「虹の福祉会まるっとケアにじ」を進化させ、役割を発輝します。各事業所では特徴と役割を再確認し諸活動を展開します。

○事業の質の向上に取り組みます。事業所毎に課題や目標を職員で共有しすすめましょう。日常のサービス内容の改善向上を含め、健康管理、日常の身体機能の維持、口腔ケア、介護ケア、相談機能、広報など、幅広く対象を検討し推進しましょう。

○入居施設の安定的な利用と運営に取り組みます。健康管理と安全管理を向上させます。
健康管理向上では、医療連携を多職種ですすめると共に協力医療機関連携会議を活かし取り組みます。入院の場合は状況と見通し把握を行い、介護福祉の現場から提案も医科の方へ行います。口腔衛生ケア向上の取り組みはこれまで以上に充実と広がりをつくります。歯科医・歯科衛生士との定期協議やケア向上の進捗と課題等を共有し取り組みます。通所系事業所ではオーラルフレイル予防の体操やレクリエーション等の企画も工夫しましょう。

○利用者様が楽しんでもらう上で、挨拶、笑顔、職員自身の楽しさを大切にします。利用者様の身体の状況、心の状態、いきがい、くらしの質、社会とのつながり、日常の機能を大切にした事業と活動に取り組みます。諸活動の中で利用者の役割分担・参加など社会参加やいきがいや楽しさを実感できるようにより工夫します。楽しく食べること、会話や人とのつながりを大切にします。積極的に施設ボランティアグループを受け入れます。

○「認知症基本法」の「新しい認知症観」についての理解を深め、みんなで支えあいながら共生する社会をめざす行動に貢献します。

○相談活動は重点課題のひとつであり、広く知らせ、取り組みを強化します。問い合わせや相談の第一報を大切にします。状況の把握や提案やアドバイスの活動を行います。将来のくらしや介護福祉を含めたライフデザインを描くお手伝いをします。活動状況についてニュース等を通じ職員へ伝えます。

○コロナ感染症へは引き続き留意し、基本的感染対策を継

続します。

②保育事業

○保育目標、方針に基づき、子どもの心身の発達に寄り添った保育に取り組みます。

○地域に根差した大切な保育園として事業を継続していく上で経営改善をすすめます。
事業収益を伸ばし、資金確保ができる経営基盤の確立が課題となっています。運営の工夫も行い、定員(90名)までの園児受入れに取り組みます。施設・設備等の整備や更新を可能とする財務基盤の改善を目指し運営します。

○子どもと職員の健康と安全管理に努めます。危機管理を高め、事故防止や各種訓練に取り組みます。

○保護者や家庭との協力・連携を深めます。

○行政関係機関、学校、園医、発達支援事業所等との連携で子どもの発達支援、保護者の子育て支援に取り組みます。

○子どもの権利と尊厳を守り育む保育活動と地域社会づくりに貢献します。
保育園が持続可能な事業であるために、実効性のある政策や仕組みづくりを行政や国に他団体と共に働きかけます。

○普段の諸活動の中で介護施設の入居者や利用者との交流を工夫し取り組みます。

2、人事・管理運営、教育研修

○職員の確保を法人の最重点課題に位置づけ、採用活動を強化し取り組みます。安定した運営体制をめざし、年間の採用計画に沿いすすめ、採用後の研修とフォローを充実します。

○2025年度より準備をすすめた外国人特定技能制度を活用した労働者の受入れを実現します。研修プログラムに添い援助します。

○教育研修の充実に取り組み、学びを職場に活かします。職員育成委員会での年間計画立案と実施とフィードバックを大切にします。

○制度教育と事業所や職場での教育研修や学習会など、現在の取り組みを「見える化」します。専門性を高め、職員のキャリアアップにつながる教育や研修参加など情報収集し活用します。これらを視覚的にわかるように図式化し、採用対策においても活用できるようにします。

○事業運営で必要となる資格要件や更新手続きを管理し、育成や更新等を、目標を持ち計画的に推進します。

○職員の学びと見聞を広げ、事業内容や質の向上に役立てるために、他施設等への見学研修や研修参加など積極的に推進します。外部講師による講演なども積極的に取り入れます。

○気持ちよい挨拶と「ありがとう」等の感謝の声かけのある職場風土・文化を育みます。
接遇の向上は、事業活動の質の担保と円滑なコミュニケーションと運営に不可欠であり、地域や来訪者、他事業所や学校関係機関での評価にもつながります。挨拶、接遇の向上の取り組みを推進します。様々な介護現場においても適切な対応を向上させます。

○平和と民主主義、医療介護やくらしをめぐる社会的状況や取り組みについて学びます。

○介護てつだい隊の受入れを積極的に行い、地域の方々の協力を得て運営します。

○組織統治の強化、管理者・職責者の役割発揮、事業所の連携強化に取り組みます。

3、経営管理

○組織と事業の継続発展のため、職員の生活を守るため、経営の改善が重要です。
事業利用者を増やし、施設の稼働を高め、事業収益予算の達成と前年比での伸びを確保します。適切な費用管理を行います。事業収益は10億5千万円以上の確保を目指します。

○施設入居床や各施設の定員は地域福祉の資源です。利用者の計画的確保で稼働を高めると共に、空床や施設定員未達の期間短縮に取り組みます。

○事業収益の確保では、利用者の計画的で継続的な確保で件数・一日平均等の予算達成に取り組みます。全職員で経営の進捗状況を共有し、利用者様増や今後のつながりづくりをすすめます。

○費用管理を適正に行います。資材や水光熱費等の高騰に対し、原価意識を持ち、大切に使用し、支出管理を行います。事業利用者数に照らした適正な人員配置で運営を行います。人件費の伸びに見合う収益の確保で、適切な人件費率の管理に留意します。

○事業所毎に事業収益の確保と資金収支を重視した経営管理に取り組みます。施設の建物・設備補修・機器更新等の投資が計画的に可能となる事業運営を行います。事業所毎の今後の計画的投資計画も検討し、必要となる事業キャッシュ等の検証を行います。2026年度の事業活動資金収支差額(事業キャッシュ)1億円をめざします。

○地域の人口動態や介護需要、医療介護施設等の状況、社会保障制度改革の中でくらしに係る影響をつかみ、これらの時代変化に対して役割を発揮できる事業所の諸活動をすすめます。事業によっては経営及び体制見通し等を含め今後のあり方について検討していくものとします。

○これらのことを踏まえ、私たちの役割を果たし、職員の生活を守り、事業の継続・発展のため、必要となる経常増減差額を確保します。

○社会福祉法人の会計基準に沿った経営管理を行います。

4、法人運営

○ガバナンスとコンプライアンスを強化し運営します。

○感染症に対する基本的感染対策を継続しながら事業運営を行います。

○国の制度見直しや社会的状況や変化を注視し人事労務の諸制度の改善を政策化します。

○広報活動を充実・強化します。広報のツールや手法を、整理し、それぞれの広報対象や目的、方法を明確にします。法人インスタグラムの充実をはかります。ホームページの内容改善に取り組みます。紙媒体のニュースも大切にします。これらの広報戦略を研究します。

○業務委託事業者との相互協力の中で事業運営をすすめます。時代の変化や関連する技術等の進歩の中で委託に関する研究も行います。

○生産性向上委員会の討議をすすめ、業務効率化や改善に取り組みます。

○事業所をこえてそれぞれの活動の特徴を伝えあい、職員相互の理解を促進します。

5、地域福祉への貢献、まちづくり

○相談機能を高め取り組み、地域福祉とまちづくりに貢献します。前年度に続き、法人事業計画の重点課題に位置づけます。「定例の相談会」は、包括支援センターや地域事業所、民生委員や町内会等へ知らせていきます。

○誰もが安心してくらし続けられるまちづくりに貢献します。
地域にある様々なネットワークとのつながりをつくります。地域資源とネットワーク等を可視化し、取り組みます。地域組織や諸団体、事業所、店舗などとの連携でまちづくりに貢献します。
○町内会、民生委員、地域の協力機関(者)との日ごろからの交流を大切にします。
○コープかごしま、大学生協、医療生協と事業と運動での連携を図ります。食やくらし、健康等に係る情報交換をすすめ貢献します。医療生協のおたがいさま活動・ボランティアすまいるとの連携を図り、くらしの助け合いの輪を広げます。
○災害と感染に対するBCPは定期的メンテナンスし、職員への周知や訓練を継続して取り組みます。
○気候危機問題やSDGsについて学び、できることから行動し、発信も工夫します。
○誰もが健康で平和にくらせる社会の実現に向けて幅広い人々と連帯・連携します。
権利としての社会保障を守り発展させる運動に他団体と共に取り組みます。ジェンダー平等・多様性を尊重し、すべての人の人権が守られる公正な社会づくりに貢献します。



2026年6月16日　2026年度第1回定時評議員会

2026年度　役員体制

〔役員名簿〕

役　職	氏　名	職業・役職名
理 事 長	水谷　吉伸	社会福祉法人鹿児島虹の福祉会 理事長
副理事長	木田　博文	社会福祉法人鹿児島虹の福祉会 副理事長 生協往診クリニック 院長
業務執行理事	田中　喬也	社会福祉法人鹿児島虹の福祉会 法人本部長
理　　事	田代　真也	社会福祉法人鹿児島虹の福祉会 介護次長・特養ホーム施設長
理　　事	小田　広行	社会福祉法人鹿児島虹の福祉会 にじのさと保育園 園長
理　　事	乗添　友尚	鹿児島医療生活協同組合 健康まちづくり部 部長
理　　事	山口　　斉	株式会社コープサービス 代表取締役社長
監　　事	加治屋忠一	株式会社南日本薬剤センター薬局 やくし店 薬局長
監　　事	小園　　隆	生活協同組合コープかごしま くらし支援部 部長スタッフ

- 任期：2025年6月10日定時評議員会選任後～2027年6月定時評議員会終結時
- 2025年6月10日第1回定時評議員会にて選任。同日第2回理事会にて理事長、副理事長選定。
- 2026年5月21日より業務執行理事選定。

2026年度　役職者体制（2026年7月時点）

	役　職	任　務	氏　名
本部	理　事　長	代表理事	水谷　吉伸
	副 理 事 長	鹿児島医療生活協同組合 生協往診クリニック院長	木田　博文
	業務執行理事	法人本部長(法人統括責任者)	田中　喬也
特養ホーム	施　設　長	施設管理者(介護次長 兼務)	田代　真也
	介護　課長	施設長補佐、介護業務責任者	迫田恵理奈
	介護　課長	施設長補佐、介護業務責任者	中原　直利
	看護　課長	施設長補佐、看護業務責任者	東　　広江
	生活相談員　主任	生活相談員、ショートステイ責任者	堀之内辰也
	介護　主任	従来型	市之瀬智子
	介護　主任	ユニット 福	熊谷　正樹
	介護　主任	ユニット 幸	久保　政雄
	介護　主任	ユニット 和	上村　朋寛
	事務　課長	本部長補佐、経理業務責任者	小原　聖子
	事務　課長	本部長補佐、事務業務責任者	末吉　健治

	役　職	任　務	氏　名
特養ホーム	事務　係長	本部長・事務課長補佐、総務業務責任者	海江田　駿
デイにじ	所長　主任	事業所管理者	藤崎　由実
	機能訓練　主任	所長補佐、機能訓練責任者	竹下　知香
居宅	所　　長	事業所管理者、介護次長・特養ホーム施設長兼務	田代　真也
	介護支援専門員　係長	所長補佐	池田　義信
	介護支援専門員　係長	所長補佐	山下　和宏
デイ本町	所長　係長	事業所管理者	松元憲一郎
	介護　主任	所長補佐	井上　裕美
ケアハウス	施　設　長	施設管理者	五反田佳岳
小多機	所長　主任	事業所管理者	竹内　弘樹

保育園	保育園　園長	施設管理者	小田　広行
	保育園　課長	園長補佐	青屋菜穂子



特別養護老人ホーム
にじの郷たにやま



特養ホーム 1年の活動

～地域の医療・福祉を支える拠点として次なる歩みと新たな挑戦～



初詣



お花見



敬老会　職員によるエイサー



施設の菜園での収穫



女子会



保育園児との交流



餅つき大会

当施設では昨年度、介護報酬改定の重要テーマである「地域包括ケアシステムの深化・推進」に沿って、利用者様の健康管理と医療連携の強化に努めてきました。

具体的には、協力医療機関の医師と施設職員による「医療連携会議」を毎月開催し、多職種で健康管理の方針やケア方法を協議しています。また、地域歯科医院との連携による「訪問歯科診療」を開始し、口腔衛生管理の向上と職員のケア技術向上に努めています。

これらの取り組みは着実に成果を結び、口腔内トラブルの早期発見・病気の予防に繋がったことで、昨年度と比べて11名の入院者の減少という成果につながりました。利用者様が住み慣れた施設で健やかに、笑顔で過ごせる時間が増えたことは、私たち職員にとっても大きな喜びです。

そして今年度、さらなる発展に向けた新たな挑戦として、外国人労働者の受け入れをすすめています。言葉や文化の壁を越え、日本の優れた介護技術を学びたいという熱意を持った人材を迎えることは、施設全体に新鮮な活気をもたらしてくれるものと期待しています。多様な価値観に触れることで、他の職員にとっても自身のケアを見つめ直し、多職種間のコミュニケーションや思いやりの心をさらに深める好機となると思います。受け入れにあたっては、安心して働ける環境を整え、「日本に来て良かった」「この職場で働くことが出来て良かった」と思ってもらえるよう職員一丸となってサポートしていきます。

今年度は、これまでの医療連携をさらに深化させつつ、業務の効率化や生産性向上にも取り組みます。そして、新たな仲間とともに「地域の福祉施設」としての役割と機能をさらに発揮し、皆さまから選ばれる「温かい施設づくり」をすすめますので、ご協力をお願いいたします。

ケアハウスにじの郷小松原 1年の活動

〈新年会〉



▲ 職員の華麗な舞踊

〈レクリエーション〉



▲ 雨の日にも負けずに…

～皆さまの笑顔と一緒に～

ケアハウスでは、入居者様が安心して笑顔で過ごせるよう、「職員も一緒に楽しむ」を合言葉に取り組んでいます。季節ごとの行事をはじめ入居者様のお誕生会、日々のレクリエーションやイベントを通して、入居者様同士の交流を深める機会を大切にしています。また、新たに導入した生活総合機能改善機器を活用し、カラオケ、リズム体操、脳のトレーニングなど、楽しみながら心身の健康維持につながる活動にも取り組んでいます。敬老会では、ご家族にも参加いただき、一緒にレクリエーションを楽しみながら、笑顔あふれる時間を過ごしていただきました。ご家族とのふれあいは入居者様にとって何よりの喜びであり、職員にとっても心温まるひとときとなりました。さらに、お茶会の企画や制作活動、外出支援などを通じて地域の皆様との交流の機会も広げることができています。

医療面においては協力機関や関係職種との連携を図りながら、日々の健康管理や体調変化の早期発見・早期対応に努めています。定期的な健康観察を行い、入居者様お一人おひとりが安心して生活できる環境を心がけています。これからもお一人おひとりの思いや希望を大切にし、その方らしい生活が継続できるように支援するとともに、笑顔あふれる暮らしの実現に向けて、職員一同努めてまいります。

にじのさと保育園 みんなの1年

～みんなの笑顔輝け～

〈お別れ遠足〉



〈介護施設との交流〉



保育園では毎日子どもたちの元気な声が響きわたり、園庭をお友だちと一緒に走り回っています。

春の親子遠足は雨天のため園内での開催となりましたが、親子でゲームを楽しんだり、保護者と保育者が交流を深めることができました。運動会では竹馬や跳び箱など、練習してきた成果を一生懸命に披露してくれました。その一生懸命な姿に子どもたちの成長を感じました。園外保育では季節を体で感じたり、植物や虫などに触れました。子どもたちは自分より小さなお友だちをお世話したり、一緒に遊ぶことで子ども同士で育ちあう姿が見られました。にじひろばの畑には、ピーマンやトマト、白菜などを植え、頑張って育てました。

保護者の皆さんとも話し合いながら、育児相談の実施、児童発達支援事業所などの関係機関と連携を図りました。

〈運動会〉



〈野菜の収穫〉



2025年度事業及び決算報告

■2025年度は管理運営体制の課題への対応と今後の管理体制構築に向け、介護及び事務の係長任命や介護主任及び副主任の任命等を行いました。また、6月には居宅管理者の交代と特養ホームの看護職員の内部異動を行いました。
感染症に関しては基本的な対策の徹底に努めていますが、10月中旬以降、特養ホーム(ユニット型)での新型コロナウイルス感染症の感染拡大や1月中旬以降にはインフルエンザ感染症が拡大しました。また、事業計画に基づく職員育成の取り組み(階層別制度教育研修会の開催等)や相談機能強化の取り組みを進めました。制度教育研修会では、事業の質を高める課題や専門家としての他者へのかかわり方の工夫等について、講義や分散会での意見交換を行いながら学びを深めました。毎月開催している相談会では3月までに合計27件の相談があり、必要なサービス紹介等を行い利用に繋がるケースもありました。今後の事業活動に繋げられるよう地域から求められる要望を精査することが課題です。
経営の厳しさは2025年度においても続きました。収支差額では大幅な減収減益となり、例年になく厳しい状況となりました。利用者確保と日当円(件当円)の改善が課題です。特養ホーム及びケアハウスについては空床後のスムーズな入所(居)者受入れや健康管理強化による入院減、短期入所や通所系サービスについては利用者確保やキャンセル後の振替利用、居宅介護支援では担当件数増などが課題となっています。
こうした中、2000年度の介護保険制度開始と同時に事業を開始した訪問介護(ヘルパー)事業について、2014年度以降赤字が続き累積赤字を解消できる見込みがないことから2025年度末で事業を廃止しました。
事業継続の為には安定した経営基盤の強化が必要です。その為には利用者確保と安定した利用継続を追求し、予算目標の達成を追求することが重要です。また、事業継続のために必要な職員確保を最重点課題として位置づけ取り組んでいますが厳しい状況が続いています。今後も対策の具体化に取り組みます。具体的な対策を継続・発展させ、全職員協力のもと職員確保や業務改善による笑顔ある働きやすい職場づくりと経営改善を追求します。

■介護事業では、職員体制の安定をめざし採用活動を進めましたが、依然として厳しい状況が続いています。新卒採用については7月から学校訪問を開始しました。年々職員確保が困難になる中、昨年度に続き、資格取得養成校以外の高等学校への訪問も実施し、無資格者の採用を進めています。また、職員への紹介依頼等を強化し、引き続き全職員協力のもと採用活動を進めました。
介護サービスの質の向上においては介護過程の展開を位置づけ、ケア計画に基づき他職種との連携を図りながら質を向上させ利用者満足度の向上に努めています。
2024年度より、入所(居)施設では医療連携(協力医療機関連携会議)と歯科連携(口腔ケアの取り組み)の具体化が図られました。今後、特養ホームとケアハウスではこの間の取りまとめと成果を他事業所と共有し発展させることが課題です。引き続き、利用者様の健康管理や身体機能の維持、口腔ケアの向上に努めます。
また、ケアプランデータ連動システム導入に向け準備を進めました。
職員研修は、外部研修の直接参加も積極的に進めています。県老施協、介護福祉士会などの研修を中心に多くの職員の参加を進めています。尚、主任ケアマネ研修を1人が受講し修了しました。引き続き事業運営に必要な資格取得を推進します。法人学習会や制度教育を通じて職員一人ひとりが法人理念や役割を意識し、今後のありたい姿をイメージして笑顔のある働きやすい職場づくりを目指します。
地域との交流においては、地域密着型事業所の運営推進会議は継続して開催しており、会議内でいただいた貴重なご意見等について機関会議にて情報の共有を進めました。また、各事業所では歌や音楽、踊りのボランティアの受け入れを積極的に進めています。
町内会の夏まつりなどの行事も開催されています。また、まち美化活動、防犯パトロールへの参加、地域住民の介護アルバイト(介護てつだい隊)の受け入れを進め、地域との交流を進めました。

■保育事業では、職員体制は落ち着いていますが、新卒職員採用は非常に厳しい状況です。また、利用定員である90人までの受け入れが出来ませんでした。園児受入れは保育園の経営改善(園児受入れと費用削減)は事業継続の為にも最重要課題です。
職員確保の取り組みは、中途採用対策とともに、新規学卒者の受け入れに向けた対策(実習受入れや学校訪問等)の強化を進めます。
基本的な感染対策を継続し、子どもを第一にした活動を進めています。また、昨年に続き、5月末には園児、施設入所者、通所事業所利用者、職員との合同での写真撮影や事業所訪問を実施し交流が図られました。
給食については子どもの食事の重要性を共通認識とし、引き続きよりよい給食をめざして委託業者と連携して取り組んでいます。
保護者との関係づくりについては、入園式で今年度の保育計画をお伝えし、6月には懇談会を開催し、情報の共有と関係づくりに努めました。一人ひとりの子どもの発達を見極め、気になるところは保護者にお伝えし、必要に応じて関係機関への相談につなげるなど、子どもにとって今必要なことを保護者と一緒に考えることが出来るように努めました。

2025年度決算概要

貸借対照表(2026年3月31日現在)

(単位：千円)

科目		科目	
流動資産	615,769	流動負債	106,454
現金預金	474,866	事業未払金	30,138
事業未収金	135,259	1年以内返済借入金	47,818
その他	5,644	その他	28,498
固定資産	1,724,759	固定負債	142,051
基本財産	1,591,485	設備資金借入金	112,709
建物・建物付属設備	823,995	リース債務	0
土地	767,490	退職給付引当金	24,092
その他の固定資産	133,274	長期預り金	5,250
		負債合計	248,506
		次期繰越	1,269,881
		(うち当期活動収支差額)	48,117
		純資産	2,092,023
資産合計	2,340,529	負債及び純資産の合計	2,340,529

2025年度事業収支決算(2025年4月から2026年3月)

(単位：千円)

	予算	実績	予算比
介護保険事業収益	911,460	849,293	93.2%
保育事業収益	114,648	131,178	114.4%
ケアハウス収益	48,454	46,867	96.7%
経常経費寄附金収益	240	100	41.7%
サービス活動収益計	**1,074,803**	**1,027,440**	**95.6%**
人件費	706,218	662,345	93.8%
事業費	154,122	153,261	99.4%
事務費	132,971	127,750	96.1%
利用者負担軽減額	2,874	680	23.7%
減価償却費	68,443	68,089	99.5%
国庫補助金等特別積立金取崩額	△ 24,771	△ 24,771	100.0%
サービス活動費用計	**1,039,857**	**987,355**	**95.0%**
サービス活動増減差額	**34,945**	**40,084**	**114.7%**
サービス活動外増減差額	**6,131**	**8,097**	**132.1%**
経常増減差額	**41,076**	**48,181**	**117.3%**
予備費	**10,300**	**0**	
会計基準当期増減差額	**30,776**	**48,177**	**156.5%**
次期繰越増減額	**1,252,481**	**1,269,881**	**101.4%**
当期活動増減差額(国庫補助金関係除く)	**6,005**	**23,405**	**389.8%**

※2026年5月26日：第1回理事会、2026年6月16日：第1回定時評議員会にて承認

2026年度予算概要

2026年度事業収支予算(2026年4月から2027年3月)

(単位：千円)

	予算	前年実績比
介護保険事業収益	925,822	109.0%
保育事業収益	123,956	94.5%
ケアハウス収益	48,153	102.7%
経常経費寄附金収益	240	240.0%
サービス活動収益計	**1,098,172**	**106.9%**
人件費	731,119	110.4%
事業費	155,736	101.6%
事務費	134,488	105.3%
利用者負担軽減額	2,829	416.0%
減価償却費	67,059	98.5%
国庫補助金等特別積立金取崩額	△ 23,771	96.0%
サービス活動費用計	**1,067,460**	**108.1%**
サービス活動増減差額	**30,712**	**76.6%**
サービス活動外増減差額	**5,791**	**71.5%**
経常増減差額	**36,503**	**75.8%**
予備費	**10,300**	**—**
会計基準当期増減差額	**26,443**	**54.9%**
国庫補助金関係除く増減差額	**2,672**	**11.4%**

※2026年3月17日：第7回理事会にて承認

相談活動の取り組み
～介護相談会の実施状況と今後の展望～

2025年3月より福祉の総合相談窓口としての役割の充実、地域とのつながりやお困りごとの把握などを目的に介護相談会を毎月第1土曜日に開催しています。相談件数は開始から1年間で30件あり、のぼり旗を見ての直接のご相談や、地域包括支援センター、医療機関、ご家族、職員など、さまざまな方からの紹介と相談が寄せられました。相談内容は、自宅介護の不安や介護サービス利用に関するものが最も多く、中には施設入居や介護保険制度に関する相談も寄せられます。また、相談内容に応じて適切な事業所へつなぐことで、施設見学やサービス利用、新規入居につながった事例もあり、相談者からは「気持ちが楽になりました」「今後の参考になります」などのお声もいただいています。



相談会を通じて、介護サービスや高齢者施設に関する情報が不足していることが見えてきました。地域や関係機関へのお知らせを強化し、相談会を通じて地域とのネットワークを深め、地域に根ざした施設、相談窓口として取り組みを充実させていきたいと思います。ご相談やお困りごとがありましたら、開催日以外にも個別相談や訪問対応を行っていますのでいつでもお声掛けください。

にじの郷で一緒に働きませんか！



- 一緒に働いていただける職員を募集しています。
- 見学も随時受け付けています。
- 介護・保育の現場で働きたい方は是非ご連絡ください。
  また、お知り合いで働きたい方がいらっしゃいましたら是非ご紹介ください。

社会福祉法人
鹿児島虹の福祉会

- **特別養護老人ホームにじの郷たにやま（ショートステイ併設）**
- **デイサービスセンターにじの郷たにやま**
- **介護支援センターにじの郷たにやま**
- **本　部**
  〒891-0105 鹿児島市中山町5028番地80
  TEL.099-267-3977　FAX.099-267-3180
- **ケアハウスにじの郷小松原**
  〒891-0114 鹿児島市小松原1丁目15-19
  TEL.099-210-5130　FAX.099-210-5223
- **デイサービスセンターにじの郷たにやま･本町**
  〒891-0141 鹿児島市谷山中央3丁目4582番地 谷山中央ビル2階
  TEL.099-263-5066　FAX.099-263-5068
- **小規模多機能ホームにじの郷たにやま**
  〒891-0105 鹿児島市中山町5028番地78
  TEL.099-813-8140　FAX.099-813-8141
- **にじのさと保育園**
  〒891-0105 鹿児島市中山町5028番地87
  TEL.099-263-1202　FAX.099-263-1208

